

<祈禱会の聖書から> 村上定幸

【箴言】祈禱会では、“歩む道が曲がったりそれたりしていても、清く正しい行いをする人がある(21:8)”が開かれました。新共同訳聖書を用いるようになってから一年ですが、このあたりには、小見出しのないことに気付きます。いちばん近いものが9章の“愚かな女”ということになりますが、この節は、ちょっと関係なさそうです。

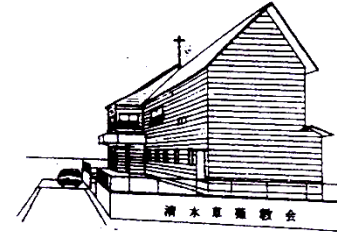
【ただまっすぐに】聖書の教えは、ただひたすらに、主の道を求めて進む事と理解されます。ピリピ書3:12に“既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです”とあります。これは正しいのです。しかし私たちは、そうできているでしょうか。そう思った時に、この一節が慰めの言葉になります。知っている善を行わず、気付かぬうちに“曲がったりそれたり”するのです。イサクとリベカも、モーゼに率いられた人々も、道からそれてばかりでした。創世記も出エジプト記も、殺人や裏切りなど、悪しき行いに始まり、曲がってばかりです。しかしこれを私たちは、神の恵みの書として読む事が出来るのです。不思議です。信仰の書なのです。画策に明け暮れた人さえ信じたのです。

【しかし恵みの書】そのような中に神の恵みが貫かれています。この世であくせくしている、信仰者に、“あなたは間違いを犯すかもしれない、しかし神の救いの大きさを知れ”と語りかけています。アブラハムは星を見せられて、その光景によって神を信じました。“主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる」”(創世記15:5)とあります。しかし私たちは、もっとすごい出来事、十字架と復活の出来事を知りながら、時として“神を信じないことにしよう”と思ってしまうのです。

【気になる箇所】いつも一箇所思い出します。“エサウは、四十歳のときヘト人ベエリの娘ユディトとヘト人エロンの娘バセマトを妻として迎えた。彼女たちは、イサクとリベカにとって悩みの種となった。(創世記26:34~35)”という箇所です。聖書は何気なくこの事実を記していますが、親の悩みになった(なり続けた)というのです。これに類することは、誰にでもありそうなことです。“あのことさえなかったら”とか“このことが私を台無しにしている”という具合にです。“こんなはずじゃなかったのに”と思った時、“曲がったりそれたり”した自分を思い出すのです。どうするでしょうか、なかったことにはならないのです。箴言は“清く正しい行いをする人がある”と私たちに主の道を、恵みの内に語りかけているのです。

週報

2011年 5月 8日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリースタジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042